

頼家ゆかりの絵図

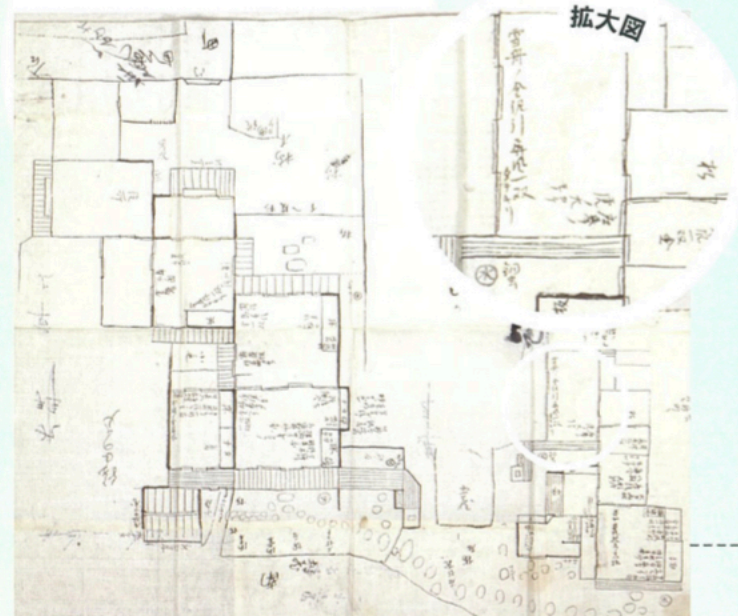
なが 長久保赤水と頼春水の親交を物語る



長久保赤水は常陸国の地理学者で、彼が作成した日本地図は広く流布しました。本図は赤水の屋敷に水戸藩主が訪れたときの様子を描いたものです。赤水は頼春水にこの図を送り、詩文を求めた経緯から頼家に伝わりました。

「常州多珂郡赤浜村新野宅長久保赤水隠居松月亭君侯憩息図」寛政3年(1791)頃、当館蔵

かざ 飾られた書画や工芸品が分かる



屋敷には雪舟の屏風や銅虫(広島の工芸品)が!

文化3年(1806), 唐津藩主水野忠光は、江戸参勤の帰路広島へ入り、三国屋栄次郎宅に宿泊しました。本図はその屋敷の平面図で、当日各部屋に飾られた書画や工芸品が細かく記されています。

「三国屋図」文化3年(1806), 当館蔵

博 学多才な大坂の木村蒨葎堂



木村蒨葎堂は書画や詩、本草学など多方面で活躍した大坂の町人です。頼春水は若い頃に大坂で学んでおり、蒨葎堂と交流がありました。本図は、伊勢国三重郡川尻村(現三重県四日市市)への行程図で、寛政2年(1790)からしばらくの間、川尻村で過ごした蒨葎堂が春水に送ったものです。

「勢州三重郡川尻村往來地圖」寛政2年(1790)頃、当館蔵

こ 古墳と埴輪を記録した図



古墳に並べられた「瓶」(埴輪)の大きさや特徴についても記される!

備中国下道郡川辺駅(現岡山県倉敷市)の南方に位置する帆立貝形古墳の図。同郡出身の地理学者・古川古松軒が著書『吉備之志多道』のなかでこの古墳を紹介しており、本資料は春水と交遊のあった古松軒が伝えた可能性があります。

「備中国下道郡南山古墳ノ図」江戸時代後期、当館蔵